

マダニ症の重要性

執筆者・岡谷動物病院 佐々木厚さん

マダニが急発生する季節になりました。草むらや林、森、芝などで動物や人間に寄生するマダニの吸血行動が与える直接的被害に

は、「貧血」「マダニ腫液タンパク質に対するアレルギー反応」「マダニまひ」があります。間接的被害としては、さまざまな病原体を運び、動物や人間に伝染させる「ベクター(媒介者)」であるということが重要です。

特に最近では、「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」や日本紅斑熱など、人に重篤な症状を引き起こすマダニ媒介性感染症が多発しており、小動物に寄生したマダニは人の住環境へ持ち込まれる危険因子となります。



マダニの予防



外から帰ったら全身をチェック
もし吸血されていたら…自分で取るうとせず、必ず病院へ



駆除剤を使う



マダニがいそうな場所に行かない



病原体を運び動物や人に感染

触らずに必ず病院で除去を

「貧血」「マダニ腫液タンパク質に対するアレルギー反応」「マダニまひ」があります。間接的被害としては、さまざまな病原体を運び、動物や人間に伝染させる「ベクター(媒介者)」であるということが重要です。

ないように頭ごと全部除去する必要があります。人間がマダニに食われた場合も、触らずにすぐ病院に行つて除去してもらい、マダニ媒介感染症の対応を尋ねてください。

マダニが媒介する

さまざまな病気

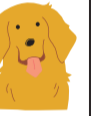
以下に、マダニ媒介性疾患を説明したいと思います。

原因はマダニ媒介性感染症です。感染宿主は人、家畜、愛玩動物、野生動物、鳥類など極めて広範囲に及びます。人では発熱、呼吸器症状、流涎がありま

す。原因はマダニ媒介性脳炎ウイルスです。



【次は9月16日に掲載予定です】



このコーナーへのご意見、ご感想をお寄せ下さい！
ご意見、ご感想、岡谷動物病院の佐々木先生に聞いてみたいことなどをお寄せ下さい。住所、名前、電話番号を明記し、郵送(〒394-0028岡谷市本町3の8の30)、ファクス(0266・22・4444)、Eメール(mail@shimin.co.jp)のいずれかで、市民新聞グループ編集局「見る」係へお送りください。
バックナンバーは岡谷動物病院ホームページでご覧いただけます。